平成２５年度研究成果報告書《平成25年度教育課程研究指定事業》

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
ふりがな 学校名 （生徒数）	（音威子府村立） 北海道おといねっぷ美術工芸高等学校（１１８人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：〒098-2501　北海道中川郡音威子府村字音威子府１８１番地１
電話番号：０１６５６－５－３０４４
研究内容等を掲載しているウェブサイトのURL：http://www5.ocn.ne.jp/~otokoh/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：４高等学校
○研究対象教科等：工芸
○研究のキーワード：工芸Ⅰ，学習意欲，指導方法，評価方法，新学習指導要領
○研究成果のポイント：育成する資質や能力を明確にし，一人一人の取組の過程における課題の明確化を図った学習指導を行う。評価方法等を工夫し，生徒の実現状況を的確に把握し指導に生かすことで，生徒の学ぶ意欲や学習効果が高まった。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

造形体験を通して，感性を高め，創造的な表現と鑑賞の能力を相互に関連させながら育成し，学習意欲の向上を図る指導方法の研究

（２）研究主題設定の理由

本校は１学年１学級の村立高校で，木材工芸を中心として学習する北海道唯一の工芸科を設置する高校であり，全国各地から工芸や美術に関心を持った多様な生徒が入学している。様々な造形体験を通して，豊かな人間性の育成を目指しており，一人一人の個性を尊重しながら，自ら学ぶ意欲や発想力，創造力，表現力の伸長を図るため，感性を豊かにする教育活動を一層充実させることを目的として，研究主題を設定した。

（３）研究体制

① 総括　…　校長
② 総務　…　教頭，教務部
③ 渉外　…　事務長
④ 調査研究　…　工芸科教諭２名
⑤ 調査研究協力　…　工芸科教諭
⑥ 連携１　…　東海大学
⑦ 連携２　…　スウェーデン・レクサンド高校
⑧ 連携３　…　学校評議員，ＰＴＡ役員，音威子府村教育委員会
⑨ 連携４　…　音威子府小学校，音威子府中学校，音威子府村幼児センター

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	４月	題材の準備と担当教諭間の打合せ 「工芸Ⅰ」当初における生徒の制作に対する意欲等の意識調査の実施
	６月	先進校（宮城野高校，浦和高校）の見学訪問
	７月	教員，生徒への先進校見学訪問の報告
	９月	高大連携授業（ペーパーナイフを主とした異国の工芸品の鑑賞と講義） 調査官来校指導
	１０月	国際理解教育報告会（スウェーデン派遣生徒からデザイン等のプレゼンテーション） 高大連携授業（大学を訪問し，日本の文化と意匠についての講義を受講）
	１１月	研究のまとめ

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

①　学ぶ意欲や学習効果を高める工夫

○　金属製ペーパーナイフ制作指導の際，生徒の学習意欲を高めるため，ワークシートを用いて，制作に対する意識の変化や課題点を把握し，指導の改善に活用した。

○　生徒がワークシートや制作進度表を活用することにより，自己の制作の課題点や学習の振り返りを確認し，見通しをもって制作できるよう取組を行った。

○　制作への意欲を高めるため「工芸Ⅰ」の題材と連動した表現と鑑賞の関連を図った高大連携授業を実施した。

○　工芸品の持つ魅力や日本の文化について，大学教員の講義を受講することにより,関連する事柄や学習へ興味や関心・意欲を高めたり理解が深まるようにした。

○　生徒が学習から発見したことを一時的なものとして散在させずに，表現の過程や成果を３年間にわたって振り返りと活用ができるようまとめさせた。

②　学習評価を指導に生かす方法についての研究

○　生徒の学習意欲を高めるため，ワークシートや制作進度表，レポートを適宜提出させ，きめの細かい指導と評価を行い，意識の変化を把握するとともに，制作に向かう意欲や態度，資質や能力の向上を図り授業改善に取り組んだ。

○　一人一人が考えたことや発見したこと,感性,指導の定着度等がより把握でき，学習効果が一層向上するワークシート等の作成と活用の工夫改善を図った。

○　今後，評価を活用した，より具体的な指導の研究を進めることが必要である。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

①　制作作品に加え，ワークシート等を用いることにより，生徒の意識の変化や具体的な課題を把握し，指導の改善を一層図ることができた。

②　制作における過程や課題について，制作進度表を個々の生徒が活用し，指導者と生徒が適宜確認し合うことにより，見通しをもつ力を養い，制作への意欲や学習効果の向上につながった。

③　高大連携授業において，著名な工芸品に触れる機会を得たことにより，より良い作品づくりを目指し創意工夫を加えようとする意識が高まるとともに，美術品や工芸品などに対して,良さや美しさを感じ取るなどの鑑賞の能力の高まりが見られた。

④　生徒が,個性を生かし主体的に取り組むことができる題材を設定することにより,制作に対する意欲が高まり，育成する資質や能力の向上につながった。

（２）研究成果の意義等

①　毎時の授業におけるワークシート等の生徒の記録を分析することにより，個々の制作に対する意識の変化を捉え，授業改善や評価方法の工夫を図るとともに，他の科目においても指導と評価の一体化による指導方法の工夫改善につながると考えている。

②　指導の工夫改善に生かす生徒の意識の実態把握や評価方法の研究は，教科を問わず学習意欲を高めるための授業改善につながるものと考える。

（３）指定期間終了後の取組

①　今回の成果を生かし，他の教科・科目の実践においても応用し，学習評価を活用した指導方法の改善による学習意欲の向上に向けた研究を推進する。

②　授業研修会等を開催し，成果の普及に努めるとともに，研究の深化を図る。

③　育成する資質や能力をより明確にした，教材づくりをする。

④　表現と鑑賞を関連付けた授業の工夫を図り，相互が高まる学びを目指す。

⑤　生徒の学習意欲にしっかりと応えられる授業を研究する。